

仙人通信 151 浅間山(679 m) 高取山(556 m)

浅間山は、大山から南に延びる尾根上に位置し、弘法山へと繋がる尾根の大山寄りの基点になる山である。1月のこの時期、我が家の居間から浅間山・高取山の尾根に沈む夕日が、晴れた日の楽しみであるが、この尾根には過去1度も訪れた事が無いのでチャレンジした。

大山のバス停から、お店の前を通り、ケーブルの駅の左手にある登山口(男坂・女坂のスタート点である)から、山登りの開始だ。ケーブルのトンネル上に作られた急な男坂の階段を詰めると尾根筋となり、右手に瀬音を聞きながら自然石で作られた階段を詰める。600段以上ある階段を、25分程で登るとケーブルからの道と合流する。石に赤字で、30町(丁?)の刻み文字だ。更に5分程で大山下社(696m)である。茅で作られた2m以上もある大きな輪を潜り阿夫利神社下社でのお参りをすませて、関東ふれあいの道(日向薬師から蓑毛に向う)を蓑毛越まで進む緩やかな下だ。落葉したシデの梢越しに、江の島や三浦半島が望める。沢筋の岩は、泥岩質の大山亜層群と呼ばれる青みを帯びた岩で、鎖が付けられた場所もあるも、木漏れ日が射して暖かい。30分程歩いた地点が蓑毛と丁度真ん中にある蓑毛越で、ベンチも準備されている。目の前の浅間山の山頂には、我が家から見えるパラボラアンテナだ。尾根道は5mを超えるも、径が20cm以上ある檜が両側に林立し視界を・だ。浅間とは、富士山信仰から富士山がよく見える地に祠を祀るのが通例で、大きな富士山を期待したが残念である。峠から20分程の所にも2本のパラボラアンテナだが、こちらも檜に混じりマテバシイも加わり、残念・。緩やかな下りのコースを進むと、時折木々の間に白い富士山だ。峠から45分で、伊勢原と秦野を結ぶ高圧線の鉄塔だ。送電線下は、安全確保の為に木々が切り払われ、昨年登ったシダング山の先にやっと富士山が姿を現してくれた。ホ〜・・・。送電線越しではあるが、箱根の山や秦野や伊勢原の街も望めた。急な坂を5分下ると大山古道の峠だ。登山道は、この林道を横切り高取山へ向かう。秦野側は、シデ・ナラ・ブナ等の落葉樹林で、富士山が梢越しに望めるも、左側は相変わらず檜林だ。15分程進むと、伊勢原側も落葉樹林とる。丸太の階段を10分程詰めると、2等三角点の高取山山頂である。残念ながら、360度梢越しの眺望だ。5分程下がった所が、弘法山と聖峰方面の分岐で聖峰に向かう。この時期、穂状になったコウヤボウキと蕾を付けたナニワズが登山道を埋める。ロープを頼りに10分程下ると緩やかなコースとなり、15分程で檜林を抜けた所が、聖峰不動の祀られた聖峰山頂(375 m)である。右手から大島・江の島・三浦半島・房総半島・横浜ランドマークが、眼下には伊勢原・海老名等の街並みや東名高速や小田急線が、更にその先に高層ビル街の都心だ。相模川沿いに我が家を探す事も出来た。低い山波のコースを、電車とバスを使った、ノンビリ5時間(23000歩)の山歩きが出来ました。(h29・1・6)

大山下社



富士山



高取山

